

内科医にもできる「外傷」「軟膏」処置 ラップ療法から爪処置まで 明日から自信を持って患者さんのすべてを受け止めよう！ セミナー&懇親会

日時：平成23年9月3日（土）15：30～18：30 19：00～21：00

講師：北垣 毅 花見川中央クリニック 院長 場所：機械振興会館

週の半ばから週明けにかけて通過した台風の影響で西日本が大荒れの9月3日、花見川中央クリニック院長の北垣毅先生を講師に迎え、東京都港区の機械振興会館において「内科医にもできる「外傷」「軟膏」処置 ラップ療法から爪処置まで、明日から自信を持って患者さんのすべてを受け止めよう！」をテーマにMHS医学臨床セミナーを開催いたしました。

水虫でかゆみを訴えるのは全体の約10%程度？

今回のセミナーは内科医でも対応することができる「皮膚科の診療」「湿疹・炎症」「骨折」「創傷」「熱傷」「ラップ療法」「爪下血腫」「動物咬傷」についての診断や治療方法をご教授いただきました。

皮膚科は診断名が分からない（病名が多すぎる）から苦手という先生も多いようですが、ほとんどが日常疾患の領域に入るもので、『似た者同士を区別する』『副作用に気がつく』『患者指導・説明不足に気をつける』ことが大事だと北垣先生は言います。

脂漏性湿疹 VS. 接触性皮膚炎、おむつ皮膚炎 VS. カンジダ皮膚炎、足のタコ VS. イボ・・・などなど当然治療法も変わってきます。その区別の仕方と治療法を教えてくださいました。

白癬菌の検査の方法も細かく教えていただきましたが、指の間のジクジク水虫はかゆいが、足の裏のカサカサの水虫はかゆくなく水虫でかゆいと訴えるのは全体の10%には驚かされました。

湿疹でもステロイドを使う場合とそうでない場合、レントゲンによる骨折の見分け方と内科医でもできる固定の仕方、タコとイボの違いや水イボとボール管理法との関係も実践的なお話でした。

傷については消毒には細胞の選択制が無く、良い菌も悪い菌も殺してしまう恐れがあり、むしろ浸出液による湿潤環境を整えてあげることが傷は早く治るとのことでした。

火傷も表面の火傷であれば30分も水で冷やす必要はなく5分で充分、それよりも火傷の箇所は乾くと痛みが生じるのでワセリン等を塗りラップをまくラップ療法の説明をしていただきました。これは外傷にも効果的ですが、どんな傷や火傷にも効く万全な治療と過信しすぎてもいけないそうです。



ラップ療法の方法を説明する北垣先生

今回セミナーは初めての試みでセミナー後に懇親会を設けました。参加された先生方は地域による患者さんや医師会の違い、実際の臨床現場でのエピソードなど話に花が咲き大盛り上がりのうちに閉会となりました。

また、今回は土日の連続受講セミナーも初めて行いました。4日（日）伊藤先生により「血液疾患」をテーマに2日間の連続開催でした。

参加いただいた皆さまありがとうございました。